授業科目名・形態	エイジング論　　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	今野　修　・井澤　美樹子・工藤　智美	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	C2-1006p				

【授業の主題】

加齢によるエイジングを成長・発達の視点を含めて老化の視点から理解していく。また、老化による身体的機能や心理的機能の低下についての基礎的な知識も習得する。さらに、3A の 3 つのエイジングのサクセスフル・プロダクテイブ・アクティブの理解と支援方法も含め、老化に伴う心と身体の変化と日常生活への影響についても理解する。これらには、人間の成長と発達、老年期の定義，老年期の発達課題，老化に伴う心身の変化の特徴と日常生活への影響、高齢者の心理、老化に伴う心身の変化と日常生活への対応（援助）、高齢者に見られる精神障害とそれに対する対応（援助）が含まれる。

【到達目標】

1．高齢者の身体的、心理的、社会学的エイジングのプロセスと老化セネッセンスの個別性の変化を正しく理解できる。
2．超高齢化社会のライフスタイル、家族形態、老いの意味の変化を理解できる。
3．エイジングや老化による日常生活への影響を理解し、それに対しての支援の必要性を理解できる。
4．高齢者のイメージを正しくし、正確な高齢者像を理解できる。

【授業計画・内容】

第1回　人間の成長と発達の基礎的知識①　（　今野　）
第2回　人間の成長と発達の基礎的知識②　（　今野　）
第3回　人間の発達段階と発達課題①　（　今野　）
第4回　人間の発達段階と発達課題②　（　今野　）
第5回　老化学とは　（　今野　）
第6回　老化にともなう身体的・心理的・社会的変化と生活への影響　（　工藤　）
第7回　高齢者と健康・健康長寿にむけての健康　（　工藤　）
第8回　老年期の特徴と発達課題･老年期を巡る今日的課題　（　工藤　）
第9回　高齢者の症状・疾患の特徴と支援　（　井澤　）
第10回　高齢者の閉じこもりの概念・要因、生活不活発病の関連要因や症状　（　井澤　）
第11回　高齢者の閉じこもりに対する支援①(グループ・ワーク)　（　井澤　）
第12回　高齢者の閉じこもりに対する支援②(グループ・ワーク)　（　井澤　）
第13回　認知症サポーター養成講座　ゲストスピーカー　（　工藤　）
第14回　保健医療職との連携・職種との連携　　事例　（　工藤　）
第15回　まとめ　（　今野　）

【授業実施方法】

基本は講義形式で行います。また、第8回・第11回・第12回・第14回には課題を提示してデスカッションをしてもらい、その後発表してもらいます。そして、グループ学習による協働的学びを求めたいと考えております。

【事前・事後学習】

講義内容に応じて毎回2時間以上の予習と復習を行ってください。

【主な関連する科目】

看護学科の学生：　人体の構造と機能、疾病の成り立ち、老年看護学概論、老年看護方法論、心理学、生命科学
医療福祉学科の学生：　医学概論、生活支援技術論、介護の基本Ⅲ、認知症ケア論、心理学、生命科学

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編：最新・介護福祉士養成講座 12　「発達と老化の理解」第2版　中央法規出版.

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 80 %、提出物および授業態度 20%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院や高齢者施設等で多くの高齢者看護の経験を積んできました。その経験を生かして、看護と福祉の両面から、皆さんの役に立つ講義をしていきたいと思います。

【学生へのメッセージ】

高齢者に関心をよせて正しく理解することが学習の第一歩です。高齢者を取り巻く社会の状況・情報にも関心を寄せて下さい。